

平成27年 6月 21 日

## サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 筑波大学附属駒場高等学校・多尾奈央子
2. 講師氏名: Federico Perche 博士
3. 同行者氏名: 同行なし
4. 実施日時: 平成 27年 6月 13日 (土) 10:30 ~ 12:20
5. 参加生徒: 高校2年生 12人  
備考: 総合学習選択講座でサイエンスダイアログ講座を選択した生徒
6. 講演題目: France / Immunobiology / cancer cell targeting
7. 講演概要:
  - I) How I came to work in research, working in research
  - II) Information about France
  - III) Presentation of my research
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
  - (1) 講演時間 100 分 質疑応答時間 15 分
  - (2) 講演方法: プロジェクター使用による講演
  - (3) 通訳: なし
  - (4) 事前学習時使用教材: 講師からの Presentation Glossary。生徒に配布し、事前学習を指示。
10. 学校からの支給経費:  謝金
11. その他特筆すべき事項:

1週間前には事前学習用の glossary をいただき、生徒に配布の上で主体的に講義内容について質問できるような語句や関連分野の学習を促していましたが、それを踏まえても講義は直接専門的な内容に入り、専門用語使用の連続でただただ難解でありました。普段授業を行う人間としては、生徒の反応を見つつ、理解していないような顔つきだったり表情だったりする場合は paraphrase したり、具体例を出したりと一つ一つ理解を積み上げて進めるよう努めているので(それを同様に当然のことと求めていたのが間違いなののでしょうか?)、講師の先生がただただ顔がうつむいていく生徒の反応も意に介せずご自身の講義を進められていくのは残念でした。途中休憩の折に、会の雰囲気と生徒の学習が得られるよう修正すべく講師の先生にお願いをしましたが、その後も変わりありませんでした。質疑応答の時間にも質問がでるわけもなく、教師側での質問から生徒に刺激を与えました。今回学んだのは、自分が発表する立場のときに何に気を付ける必要があるか、presentation の時間を有意義なものにするも無意味にするも発表者の進め方が大きな影響を及ぼすということでした。